

平成23年度 第3回 磐田市立学校給食運営委員会 会議録

1 日 時 平成24年2月8日(水) 午後3時00分から午後4時30分

2 場 所 磐田市役所 西庁舎 3階 302・303会議室

3 出席者 委員：14名(別紙のとおり)
事務局：12名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校給食管理室長
学校給食センター4名 学校給食管理室管理係4名

4 傍聴者 なし

5 概 要

1. 委員14名の出席により、会議成立

2. 会長あいさつ

それでは、皆さんあらためましてこんにちは。今日はお寒い中、風は少しおさまってきましたが、そうは言ってもこんなに寒い中ありがとうございます。雨が降ると気温が上がって、晴れてくると気温が下がって体調管理は大変だと思います。特に小中学校の先生方はインフルエンザに注意されて、PTAの皆さんもたいへんご苦労をされていると思います。

私の地元の磐田西小学校もPTAメールが入ってきました。昨日お知らせしたB型インフルエンザですが、本日さらに児童が増加してきている状況です。中にはA型インフルエンザがなおった直後にB型インフルエンザに感染している児童もみられます。今後の対応については、これからお知らせします。明日は、1年1組は学級閉鎖というようなことがPTAメールできました。

先生方、また、PTAの皆さんが子どもにうつらないように、子どもからもらわないように手洗いうがい等を十分していただいて、これからもご活躍を願っています。

3. 議題

議案第3号

平成24年度磐田市学校給食物資納入業者の指定について

(事務局説明)

それでは、議案第3号について、ご説明いたします。

学校給食物資納入業者の指定につきましては、磐田市学校給食物資購入規則に則って行っています。第2条第1項において「学校給食施設において使用する物資を納入しようとする業者は、毎年度、磐田市教育委員会が指定する日までに学校給食物資納入業者指定申請書に必要書類(納税証明書、食品衛生監視票)を添えて提出しなければならない。」と規定され、第2項では「給食物資納入業者の指定は、教育委員会において、適格と判定された業者に学校給食物資納入業者指定書により通知する。」と規定されています。

適格かどうかの判定基準は、第3条に掲げていますが、4点あり、全てに該当する者としていきます。

1点目は、市内若しくは近隣市町に営業所又は店舗を有し、給食物資の生産、製造、加工又は販売を行っている者であること。

2点目は、学校給食に対応可能な販売実績を有している者であること。なお、条例第2条第2号とありますのは、磐田市学校給食条例で規定している学校給食のことです。

3点目は、指定する日時及び場所へ確実に納入し、緊急な需要に即応し得る設備能力を有している者であること。

4点目は、所在する市町の税を完納している者、となっています。

今回、平成24年度分として、これまで納入実績のあった業者等を中心に、12月20日から1月20日までの期間で募集しました。その結果、84件の申請があり、それぞれの申請者について審査した結果、全ての業者が判定基準を満たしており、適格であると判断されますので学校給食物資納入業者として指定したいものであります。

なお、申請件数ですが、平成23年度は88件の業者が指定されておりますが、6件の業者が廃業予定や店頭販売のみとするなどの理由から申請を辞退され、また、新たに2件の業者が申請をしております。新たな業者は、ビッグヤード株式会社と日本食研株式会社浜松支店の2業者です。このうち、ビッグヤードは、市内で野菜の水耕栽培での生産と販売を行っている農業生産法人で、職員で現地調査をしたところ、衛生的で状態の良い野菜を栽培しておりました。竜洋地区の単独校や豊田給食センターでの利用が可能と考えております。また、地産地消の観点からも優れているものと判断しております。日本食研は、調味料及び加工調理食品の販売、研究開発を行っており、業務用を主に扱っている会社です。給食関係では、これまで掛川市や浜松市などで納入実績があり、24年度は浜松から島田まで、県西部を中心に申請しているとのことでした。以上です。よろしくお願いいたします。

質疑応答等

<委員>

23年度88件の申請がありましたが、6件取りやめということですがやむを得ないと思います。学校給食管理室から学校給食センターが食材の検収、調理、配缶等を民間委託するということが聞いています。また、配送の人が変わり民間委託ということで、男性2名が担当してくれています。車が大きくなって安全面で細かなところまで指導してくれています。みんなの力で、おいしい給食が運ばれてありがたいと思っています。

<委員>

磐田市学校給食物資納入規則にそって、申請がされたということでいいと思います。平成23年度に比べて、どうか聞きたいと思っていましたが、詳しく説明されたのでよくわかりました。高齢で配達ができないのは仕方ないと思います。指定についてはよくわかりました。

<委員>

何年間か続けている業者が申請し、指定していただいて納入業者になっていると思いますが、何かトラブルになったということはあるですか？今後については、それをどうつないでいくのが教えてください。

<事務局>

大きなトラブルはありませんが、学校給食の場合、性質上、朝納入していただいて調理し、2時間以内に喫食という決まりがあります。どうしても業者の搬入が遅すぎたりしますと、出来上がりに影響します。どちらかという品質の良いもの入れてもらうのはもちろんですが、時間もあるので、時間もある程度指定させていただいています。時間を細かく指定させていただいるために、時間に届けられないというような声はあります。そこは譲れないところです。トラブルということはないですが、思いの行き違いがあったということは、聞いています。業者には、非常に協力して納品していただいています。

<会長>

質問を終わらせていただきます。

本件は、承認することにご異議ございませんか？

異議なしと認めます。議案第3号を承認することに決定しました。

報告第4号

平成23年4月から平成24年1月までの栄養摂取状況及び喫食状況について

(事務局説明)

表は、平成23年4月から平成24年1月までの磐田市の学校給食栄養の摂取状況です。表は幼・小・中学校別、左側が平均値・右側は基準値に対する充足率。下の表は、左が文科省から出されている学校給食摂取基準、右が県内の市町村から抽出の20校の平均、学校給食栄養報告の静岡県版です。

文科省から出されている学校給食摂取基準は、理想的な数字ですが、現状では、なかなか取りにくい基準のため厳しいところがあります。磐田市の場合は示された数字の+ - 10%を範囲とし、献立作成をしています。栄養摂取状況の充足率が100%に満たない項目は、エネルギー、中学のCa、鉄、食物繊維です。これらは、県と同じ傾向にあります。静岡県の平均よりも良好と言えます。前回の運営委員会で、充足率100%への努力を、というご意見をいただき、早速、栄養士の打ち合わせ会をもち、それらの報告と今後の取り組みについて話し合いました。常に意識し献立作成をしていきたいと思えます。4月から振りかえると、猛暑の影響で残菜の心配をしましたが、秋口から食べ量は安定しました。3月の震災直後の魚、わかめの欠品や、放射能汚染による給食物資への心配や影響も、食材の検討、献立の工夫等によりなんとかやり繰りできました。

3学期に入り、1月からインフルエンザが大流行し、体調不良のため食べ方にも影響がでました。風邪やインフルエンザ予防と併せて身体づくりのための献立の工夫や、食生活面からの予防、栄養指導の充実に努めていきたいと思えます。食品構成からみた芋、豆類、種実類、果物、小魚類などの摂取しにくい食品については、栄養素の摂取状況と併せて両面から改善を図ってきたいと思えます。

次は喫食状況について説明いたします。1月24日から1月30日の1週間を全国学校給食週間としています。まずは、全国学校給食週間について少し説明をさせていただきます。

給食が始まったのは、明治時代で、その後、給食が少しずつ広がっていき、第二次世界大戦によって一時中断。戦後、昭和21年12月24日に外国の援助物資ミルクと缶詰を使って給食を試作。この試作日、12月24日が冬休みと重なってしまうことから、1カ月後の1月24日から1週間を全国学校給食週間としたということです。この週間では、給食に携わる人達の苦労や努力を知り、感謝の気持ちをもって給食をいただき、学校給食の意識や役割について理解と関心を深め学校給食の一層の充実をはかることを目的にすべての学校で取り組みをしています。

磐田市では、1月23日(月曜日)から27日(金曜日)の一週間を学校給食週間とし小中33校に声かけをし、実施しました。この期間には、市内でとれた食材 えび芋・白ねぎ・白菜・大根・小松菜・青梗菜・タアサイ・油菜心・いちご・メロン・JAのとときめき野菜、えび芋コロッケ、いちじくジャム、お茶など特産物を使った献立を通常よりも強化し、地場産物を紹介したり、学校給食を振り返る週間として、調理職員や生産者・業者にお礼の手紙を書いたり、学校給食の歴史の紹介などを行っています。

この一週間の全国学校給食週間の喫食状況、3センター分と単独調理場15校のうち2校、東部小学校と竜洋西小学校の一週間の献立名、残菜率と意見・感想です。学校からの意見・感想は、センターと園・学校が毎日、やりとりをしている連絡ノートからの抜粋になります。インフルエンザの大流行のため、欠席者も多かったため、その分については、残菜率からはずしてあります。いずれも地域を実感し給食をいただいたという感想が多かったように思います。

以上です。よろしくお願ひします。

<事務局>

1月24日から27日にかけて、豊岡学校給食センター管内で4クラスの学級閉鎖がありました。

た。ちょうど給食週間の時だったのですが、学級閉鎖になった以外に100人から130人位の欠席がありました。残菜は確かにありましたが、地元の物を使って県内の物が入っているという給食はとてもよかったです。これからも地元の物をたくさん取り入れた献立を作ってくださいというご意見をたくさんいただきました。

質疑応答等

<委員>

意見としては、私の娘は、今、大学生ですが小学生時代の給食について何か意見があったら伝えるという話をしたら、娘は、小学校時代は、牛乳が苦手だったということで、残菜率は牛乳は0になっているが、娘は男の子に牛乳をあげていた。そうすると残菜が本当に0になっているのか？ミルメイクという牛乳に入れる甘いものがあると言っていました。ミルメイクのおかげかねと話をしました。残菜率に表れないような牛乳の好きな子にあげてしまうということがあるのかなと思います。ミルメイクは、牛乳嫌いな子がもし飲めるようなきっかけになるような目的で使っているかもしれませんが、うちの娘は役に立ったようです。

<事務局>

かなり糖分がありますので、今は使っていません。

<委員>

今の子どもたちの現状を調べてきました。残菜に関しても小学生、中学生の女子が太りすぎを気にして、残してしまうことがあります。メタボということで皆さんも気にしていると思いますが、中年の男性の肥満は問題になってメタボ検診と言われています。若い女性の場合は、やせている方が問題で、やせている子が増えています。テレビで細い女性が出て格好がいいとテレビやマスコミの影響で20代のやせている子が増えていると言っていました。だんだん高校生、中学生、小学生へと広がってきています。体重を計っても普通なのに、私は太っているからとやせたいと言って、食事を制限してしまう子も増えています。

将来、骨粗しょう症の問題になって、発育時にしっかりカルシウムを取らなければ、じょうぶな骨にならない。特に食事制限をして極端な食べ方をすると、将来、大人になってからの骨粗しょう症が問題になります。健康な赤ちゃんを産むために体力づくりが大事です。このごろは、若い女性がかもとやせているのに、妊娠してもあまりしっかり食事をしないため、生まれてくる赤ちゃんが小さく生まれる。原因は、はっきりとわからないようですが、もしかして生活習慣病になりやすい体質の子が、小さく生まれたために、生活習慣病になりやすい体質の子になってしまっているのではないかという論文も出ています。

給食も残さないで食べてくれていると思いますが、自分の体を大切にすること学校給食を通してぜひ子供さんに言ってほしいと思います。PTAの皆さんもお子さんに一声かけていただければありがたいと思います。

<委員>

今、お話されたことをずっと思っていて、給食がある中学生まではなんとかいいんですけども、高校生になった時に産婦人科の先生から高校に行って指導したいと聞いたことがありました。ご家庭のお母さん方にもお願いしたい。

全然、別の話ですが、学校で風邪とかインフルエンザで学級閉鎖になったり、欠席がすごく多い場合に作る時は、材料からコントロール出来るのか、人数分は必ず全部作ってしまうのか、納入業者に相談できるのでしょうか。

<事務局>

調整出来るものはします。数にかなり誤差が出てしまうので調整は積極的にしています。ただし、次の時に使うことはあり得ません。

<委員>

作らなかった材料は破棄してしまうのですか。

<事務局>

作らなければ破棄になります。保管できる調味料などは別ですが基本的には作らなければ破棄になります。

<委員>

学校給食週間の学校給食センターで作ったチラシを見させていただきました。明治22年のおにぎりつけものが主体で1日1回の補助的な給食でした。文科省基準の栄養バランスを考え給食を出してもらって非常にありがたいことだと思います。

自分の子どもの頃は、非常にバランスが悪かった。物資の不足があったり、30年代はコッペパン、その時代と比べてバランスのとれた献立からつくる給食になった。今の子は、むしろやせているというお話が気になりますので、磐田市の子どもたちは極端に太っているとか多少あると思いますが、平均して県や国と比較して体力、体格はどうですか。

<委員>

一般論ですが全国的に体格的には伸びてきたところが今年の秋ぐらいの新聞報道では頭打ちになってきている。体力とか運動能力は、いままで体は大きくなっているが体力は落ちているといわれていたが今年の秋の情報では下げ止まりがとまっていまちょっと上がったと報道があったと記憶しています。

<事務局>

学校給食の栄養基準を文科省がだしていますが、時代の流れによって変わってまいりました。確かに、ものがなかった時代には脂肪、エネルギー、タンパク質を十分に取らせるような基準でしたが、昨今、脂っこいものを食べすぎる家庭が多く、タンパク質、脂肪、エネルギーを給食で調整しようとし、特に食物繊維が多い豆は家庭での摂取が少ないため摂取基準が高くなっています。

<委員>

給食で提供しても食べるだけでなく、そこで運動をしないと身につかない。給食を食べて体を動かして運動をして頭を使う。そういう教育の中に子どもが育っていくのではないかなと感じます。

<会長>

質問を終わらせていただきます。

本件は、承認することにご異議ございませんか？

異議なしと認めます。報告第4号を了承することに決定しました。

審議の結果、議案第3号承認、報告第4号は了承されました。

以上 議事終了